

< ツーリズムセンター構想 >

Outdoor Life Style Directions

Nobuhiro Akashi

< 構想をまとめるにあたって >

私はキャンプや釣り、トレッキングといったアウトドア遊びが20年来の趣味であり、ライフスタイルでもあります。子どもの頃はただ“アウトドア遊びってエキサイティングだ！”と喜んで楽しんでいました。しかし、それを長年続けていると環境の変化が手にとるように体感として理解できるようになりました。それが環境破壊だったのです。宅地開発などのように人間の手で直接破壊されていく自然、酸性雨や雨量の変化などによって間接的に破壊されていく自然、どちらも感じてきました。そしてそれは自然と直接触れ合えないと理解できないことだと実感しました。

このアウトドア遊びという実体験から得た学習方法を生かしたいと思いました。例えば、街遊びが好きでアウトドアを趣味にしていない人にとって、“キャンプ”というアクティビティは遊びではありません。自然と対等に向かい合うまたとないチャンスです。そういったものを研修や学習に利用したいのです。とっかかりは「キャンプって楽しそう！」と思われてもかまいません。「研修でキャンプに行けるんだ。嬉しい！」と思われてもかまいません。その楽しい気分で参加してもらって環境を学べる教育や観光事業のようなものを確立したいと思ったのです（カッコよく言えば、雇用創出でしょうか）。学校教育にも利用できる、教員育成にも利用できる、企業研修にも利用できる、事業の確立を目指したいのです。

理想はどんどん膨らんで、地元のいろんな中小企業やがんばっている個人の活躍の場も創出したいし、ハンディキャップの人をキャンプに連れていくことによって、ハンディキャップのある人にも自然を楽しんでもらうとともに、スタッフには介護のための学習となるような、複合的効果を生み出すプログラムも作り出したいと思っています。

そんな事業体（財団でも、ベンチャー企業でもなんでもかまいませんが）の登場を大きく期待しているのです。地元でがんばっている有能な人材の発掘も期待したいと思っています。新しいビジネスの創出も期待したいと思っています。

そんな断片的な思いをパッチワークのように無理矢理つないで、まとめてみたのが本構想です。興味を持って読んでいただけるだけで幸いです。

< Introduction >

“環境問題”非常に有名な言葉。しかし、かなりの人たちが実践していないか、もしくはライフスタイルとして実践していない言葉。意識しなければ使えない言葉。

これだけ世界中で叫ばれている言葉にもかかわらず、先進国の日本ではまだまだ浸透していない言葉である。この言葉を耳にすると「難しそう。」と身構えてしまう人も多い。現代の日本における“環境”に対する取り組みは、地球というサイクルの中の一部分しか見えないように思える。

「ゴミを拾いましょう。」これはゴミが生み出されていく過程を理解しないまま言っても意味がないことであるし、単発的な行動に終わってしまい長くは続かない。その証拠に、企業やボランティア団体による海岸清掃作戦みたいな具体的な行動も最近ではめっきり減ってしまった。

“実体験のないままに、自然を理解しないままに、環境を意識させようとしている”これが現代社会の行政もしくは社会全体の風潮であるように思う。これはむちゃな話である。現代っ子は教科書上の教育ばかりの暗記社会の中で育てられ、実体験が著しく不足している。従って、実行力に欠けている。そんな人間に「知識だけで行動して欲しい。」というのは無茶な話だ。これを読んでいるあなたもそうではないだろうか？。

人間として生きていくための体験的基礎学習ができていない人材に、アカデミックな学習を要求したってそれは意味のないことである。

企業で働くにしても、現場を知っている人間じゃないと通用しないのは多々あることであるし、実践実行できる人材じゃないと誰も頼りにしてくれないのは、どこの企業や自治体でも同じことである。ほとんどの人間は自分の身にふりかかることしか行動として起こしにくいし、ピンとこないので真剣に取り組めない。これは事実である。

例えば、現代社会はとても便利な社会である。あらゆる面で様々なモノが揃っている。しかし、昔の公害が蔓延っていた時代を実体験として経験した人間ならば、公害も少なくなると実感として理解できるが、公害が眼に見えなくなってから生まれた人たちはそう感じることはできない。なにごとにも実体験に勝るものはない。公害の時代のドブ川の匂いと現代社会の都心を流れる川の匂いは、後者の方が不快ではないのである。

大学の受験もしかり、暗記社会で育ってきた要領のいいだけの人材を排除する風潮が生まれてきた。九州でも九州大学がその先陣をきる。創造力や実践力を優先するのだ。当たり前のことである。そうなって当然である。

従って、“環境問題”についても、行政は事を急いでいる割りには、ほとんどの部分をボランティア任せにしている、基礎学習の部分を怠っている。これは問題ではないのだろうか？。“環境問題”とは、我々人間が地球上の生物として、他の生き物たちと共存し、生きていくために自然環境を守ることである。ということは、基礎学習として、その守るべき自然環境を体感として理解しておくことが優先すべき事項であって、環境問題に対するための前提条件ではないだろうか？。汚染される事象に対しての対策だけを考えていても効果は薄いのではないかと思う。

本当は、“環境問題に取り組んでいる”というのを意識しないままに地球に優しい生活を日常レベルのライフスタイルとして実践する人材を多く育てなければならない。これはもうボランティアに任せるレベルの話ではない。モラル感としての社会教育である。ボランティアに任せていたのでは、ボランティア団体の都合で事業が中断しても文句は言えないからである。きちんとした人間を育てるためのプログラムに金をケチっている場合ではない。きちんとした事業体を起さねばならない。そうしないと環境教育は長続きしないだろう。行政がきちんと環境教育を体系化して、事業として成立させれば、継続も可能になるだろうし、地場企業も活性化するのではないかと素人ながらに思っているのである。

だから、まず教育されなければならないのは、子どもたちを育てていく大人たち、教育者たちだと考える。暗記の環境知識を子どもたちに教えてはいけない。自分の眼で、肌で、耳で感じた真実を伝えなければならない。ボランティアに任せるのではなく、そういう人たちには、半ば強制的な体験・勉強・研究が必要ではないだろうか？。

21世紀に向けて、自然環境や人間本来の感性を無視したこれまでの教育文化に歪が見えてきている。創造性人間の不足、実体験不足による異常行動といった課題は日に日に増すばかりである。

地球規模の環境問題が全国で取り上げられている現代社会において、あらゆるものが啓蒙活動だけではもはや今後の人間社会をダイナミックに変えるパワーのある人材は育ってこないように思えてならない。子供たちからおじいちゃん、おばあちゃんまで、あらゆる年齢層の人たちが実際に体験しながら環境問題を理解し、自己形成していく場が必要となってきた。

ツーリズムセンター構想とは、21世紀に向けての環境共生型社会を目指すための第一歩として、新しい切り口から環境教育にアプローチするためのあらゆる年齢層に対応する教育施設を目指している。省エネルギーやリサイクル・有効利用を積極的に推進しゼロ・エミッション型の施設を提案する。

そこを利用する人たちは、あらゆる角度で展開される環境理解プログラムに参加して、体験型・参加型の学習を経験し、豊かな人間性を育んでいくことができる。また、学生、企業人だけでなく市民全員を対象とした地域に開かれた施設として、環境問題をキーワードにして地域コミュニティの形成にも貢献していけるのである。

また、ツーリズムセンターは、集った人たちが環境への理解を深め、実際に地域へ、社会へと交流していく人的ネットワークの拠点を指すことも目的としている。この動きが福岡市内から全国へと波及し、さらには情報通信網を通じて世界へとその輪を広げていくことは容易に創造できる。

21世紀へ向けて、今までよりももっと高いレベルでの環境理解が必要となっている現代、ツーリズムセンターは、“ツーリズム”を切り口とした新しいスタイルの環境教育を提供していく。

それを具体的に実施するための最初の一步として構想書として本資料をまとめてみた。

< 結論！ >

ボランティアに、興味がある人だけが知識を吸収する時代は終わった。
(市政だよりでの告知ではダメ)
(そんなことを、毎年だらだらと繰り返していても、何も前に進まない)

市民全員がそのレベルに応じた環境教育を受ける必要がある！。
(市行政と教育委員会との連携事業の促進)
福岡市を環境先進都市にしたい！。

机上の教育だけではダメなことはもうわかっている。肌を通した、
五感を使った、実際の体験からしか、ボクらの母なる地球は学べない。

こんな時代だからこそ、地球と親しむインタフェースが求められている。
それがツーリズムやアウトドアアクティビティだ。

< ツーリズムセンターを作りたい >

～ コンセプト：ツーリズムセンター、そこはこんなところ～

福岡市の恵まれた自然環境および先進の設備群を融合させ、教育や生活に活かし、環境都市としてのスタンスを築く。-----「福岡環境体感ゾーン」

環境教育実践、環境教育啓蒙、雇用創出、観光・アウトドア系中小企業支援などを目的とした核となる施設。可能な限り低年齢から、可能な限り日常的に環境問題と触れ合える環境を整備し、その中核としての機能を集中させる。その中核となるのが、ツーリズムセンター。

その1) 子供から大人まで、すべての世代が実体験を通して、知識を吸収できる空間が存在している“環境教育”をトータルに提供するエココンセプト施設。

その2) ツーリズムセンターのために、新しく建物を建ててはならない。既存のビルのリユース(リサイクル)

“リサイクル”は新たなエネルギーが必要なので、基本スタンスは“リユース”。

その3) 都心にあって、郊外の自然の中へ出かけて行ける。都心から自然の中へ移動する、という過程も感性を刺激するために利用する。

その4) 近くにツアー時に集合したり、ちょっとした屋外実技講習などができる公園がある。

その5) 福岡エコロジーコンソーシアムの拠点である。福岡市内で企業や教育機関などが提供する資料により、データベースを構築し、参加している機関はそのデータを自由に利用し、必要に応じてコラボレーションし、企業活動や教育活動に利用できる。

その6) 誰もが集って学べる空間/設備の確保と雰囲気作り。

例えば・・・

< 情報検索端末 >

インターネットでの情報検索ができる。自由に情報を掲載することもできる。

もちろん、環境教育としてのデータベースを保有しており、日々更新、増強されている。ペーパーレスは講義にも利用される。

< 相談窓口 >

関連のツアー/イベントの企画、コラボレーションなどの相談ができるスタッフが常駐している（日常の組織の運営も兼ねた）。

< 情報発信の場所 >

掲示板やプロジェクターを使った簡単なシアター）と誰でも予約すれば安価に集える会議室。

< パーマカルチャーガーデン >

自然の力を集結させ、計算され尽くした農園を扱うことで、自然への理解を深め、心身ともに健康になる。

< Children's Environment Museum >

子どもたちが参加して環境を楽しみながら学習できる体験型ミュージアム。エコ素材やマルチメディアコンテンツを使った実験などが体験できる。例えば、その中のひとつのコーナー“クラフトプラッツ”では自由に使って環境上問題のない木材やナイフなどの道具がおいてあり、自由に創作活動する部屋。ヒーリングミュージックのBGMが常に流れている。

< 地域生態館 >

福岡エリアに生息する生き物が水槽などで飼育されており、地元ペットショップの人たちのスキルを利用してレクチャーが受けられる。本物の生き物たちと接することで、机上の知識を応用展開する能力を養う。

< Paperless Multi-Media Room >

子どもから大人までデジタル教材を利用したペーパーレス授業が可能な教室。紙を使わないことにより“黒板を書き写す”授業からの脱却を図る。同時にコンピューターリテラシーが身につく。

< ツーリズムの定義 >

ここで言う“ ツーリズム ”とは、
“ 観光事業を切り口にした環境教育事業 ”
のことを指す。

環境教育と観光事業の融合により、
地場を活性化することが狙いです。

<そこへ行けば・・・>

ツーリズムセンター、そこへ行けば、

環境に関する情報が自在に集められる。

マルチメディアに接して、情報リテラシーも身につく

世界中の情報が検索できる

世界最大の環境データベースがある

環境保護団体のデータベースがあり、実際のアクセスも可能

環境教育の現場がある。

アウトドア遊びができる。

アウトドアツアー（アウトフィッターズ）に参加できる。

環境研修が受講できる。

環境テクノロジーが勉強でき、本物が見れる。

科学の実験を通して、環境問題に取り組める。

環境ボランティアに参加できる。

同じ趣味の仲間ができる。

なごむ空間がある。

パーマカルチャーガーデンで環境を意識したガーデニングができる。

< ツーリズムセンターの事業内容 >

ツーリズムセンター実践するのが、4つのツーリズム

- 1) グリーンツーリズム・・・農業体験を通じて、人間と自然環境との関わり / 共生や生物工学などを身近に学び、環境教育の一端を担う。単なる体験だけでなく、机上のレクチャー、プロフェッショナルによる実技指導、きちんとしたフォローまでをトータルに実践する。
- 2) エコツーリズム・・・福岡近郊には、案外自然が豊かに残ったエリアが存在する。そのエリアを手をつけず散策し、自然環境へ理解を深める環境教育。都心でのストレスを解消する癒し効果も期待でき、情操教育の一端も担う。
- 3) アウトドアツーリズム・・・キャンプやカヌーなどの活動体験を通じて、自然の脅威、エマージェンシー時の知識 / ノウハウなどを実際の体感として習得する生活環境教育。人と自然との関わりをより密にするためのインタフェースとして重要。身を守るため生きる道具としての衣服の構造 / 機能なども学ぶ。今やナイフも扱えない、危険予知をできない、環境を無視した行動をとる、というように地球上の生物として、環境と共生するためのベーシックな生活スキルの習得を目指す。自然の中で活動することの楽しさ・気持ち良さを体感するとともに、自然の変化や自然との接し方を学ぶ。ネイチャー・ゲームやイニシアチブゲームなどもひとつの手段。
- 4) アーバンツーリズム・・・ビルなどの人造物に使われているソーラーパワーやコジェネレーションなどの設備を見学し、人間の生み出した環境テクノロジーを理解し、都市における間接的な環境との関わりを理解する環境教育。環境と人間の文化創造活動とのバランスを考察する力を身につける。

学校教育にも（いいところも、悪いところも見せて教える）

- 1)ウォーターフロントの配慮点
- 2)太陽光電池システム
- 3)産業ゴミ分別の現状
- 4)水リサイクルシステム
- 5)コジェネレーションシステム
- 6)廃棄ブロック（産廃コンクリート）のエイジング加工の現状
- 7)街路樹の樹医の必要性和街路樹のメンテナンス
- 8)ケナフの栽培
- 9)海水の淡水化システム
- 10)ゴミ処理場見学
- 11)下水処理場見学と下水ネットワーク（設備）の現状
- 12)アスファルトの劣化の現状
- 13)廃棄ガスの濃度測定とハイブリッドカーの現状

Special) トータルアウトプット

以上、4つのツーリズムを体験研修し、環境意識としてのトータルな成果をさまざまな手法を用いて、研修で得られたデータや知識、アイデアを整理、分析、考察し、最終アウトプットとしてのプレゼンテーションを体験する。

ただし、体感することをより鮮明に、より効果的に体得してもらうために座学等も行い、ツアーはプロフェッショナルがガイドする。

都市と自然との環境の対比を体感することによって、必要以上に過敏になることを避けるとともに、バランスを考える体質育成を狙う。

上記の内容の研修/ツアー（バカンスなどと呼んでも面白い）は3時間程度のものから1週間くらいのスパンのものまでを展開する。

< 事業内容 >

- ・ 各種自主運営研修（ツーリズム事業）
4つの“ツーリズム”を中心に、数時間～1週間程度まで、範囲／内容に応じて、センター内の研修室、会議室、アウトドアフィールドなどで実施する。パーマカルチャーガーデンを利用した教育も行う。
- ・ スタッフ派遣
センターに登録（契約）されている地場の各業界のプロフェッショナルスタッフの企業研修、教育機関職員研修、学校夏期合宿等への派遣。
- ・ 環境イベントのコーディネート
環境関連、アウトドア関連イベントのコンサルテーション、企画、設営、運営、デモンストレーション業務。家庭から出るゴミなどを利用したリサイクル図画工作等。
- ・ 環境教育教材提供（販売）
教材サーバを保有し、そこに教育カリキュラム資料、講義資料、各種デジタル教材（PDFファイル等）を作成、蓄積し、ネットワーク（インターネット）経由で各教育機関へ販売する。また、それら教材を利用したペーパーレス環境での机上の環境教育を提唱。
- ・ 環境教育情報データベース構築
教育機関、行政向け環境教育関連データベースの提供（Webサーバの構築、運用）、福岡市の環境施策情報等をメールマガジンで周知します。

環境教育（教育界）、観光事業（旅行代理点、地域活性化）、物販（アウトドアグッズ）など、地元企業への様々な方面への有機的な広がりが期待できる。

<雇用創出、地域貢献>

ツーリズムセンター自体は、契約しているスタッフ（地場企業中心）のコーディネイトや新たな環境教育事業の創出を担う役割を持つ。もちろん、事業に参加したスタッフには、通常レベルの対価を支払う。

実際に現場でのレクチャー（机上／実践共）を行うのは、各界のプロフェッショナルたち。その専門の知識をレクチャーしてもらうと同時に、自分たちの立場の重要性を理解してもらう。

スタッフリスト

1) グリーンツーリズム分野

糸島方面、那珂川町方面の若手農業従事者
林業従事者（福岡県：植林率日本一）

2) エコツーリズム分野

養殖業従事者
ペットショップオーナー
天文器具（光学製品）事業者
大学職員／研究者

3) アウトドアツーリズム分野

アウトドアショップ経営者／スタッフ
ネイチャーセンター勤務者

4) アーバンツーリズム分野

ビル管理システム事業者
ライフライン系事業者

< 各種ツール >

【レクチャー / プレゼンツール】

各種メディアを使ったデスクワーク

- ・ コンピュータ
- ・ デジタルカメラ
- ・ ペーパー（極力使いたくはない）
- ・ OHP , OHC
- ・ 各種クラフト素材
- ・ 各種エコグッズ
- ・ 各種アウトドア Equipment etc.

【プレゼンテーションステージ】

- ・ 福岡市近郊ネイチャーフィールド
 - 背振山系
 - 糸島半島
 - 海の中道
 - 立花山
 - 油山
 - 四王寺山
 - 宝満山
 - 須恵川
 - 大濠公園
 - 南公園
 - 那珂川
- （必要に応じて、九州全域）
- ・ 福岡市の天神地区、百道地区
- ・ パーマカルチャーガーデン
- ・ エコ農作物及びエコグッズ生産現場
- ・ ゴミ処理場
- ・ 下水処理場
- ・ 福岡インフラ構造物敷設場所
- ・ 会議室
- ・ 研修室 etc.

<教育対象>

ISO14000の時代である。まずは、企業のビジネスマンが基本を体にたたきこまねばならない。もはや、啓蒙活動や建前だけの環境論を論ずる時代ではない。ノルマ消化ではない、きちんとした教育を受ける責任がある。

- 1) ビジネスマン・・・・・・・・社会/都市を機能させる立場としての責務は大きい。すべてのツーリズム分野を企業研修として教育を受講する。
- 2) 教員・・・・・・・・教育指導的立場として、きちんとした知識及び技術が必要。夏季休暇時などにまとまった長期研修を受講する。
- 3) 大学生・・・・・・・・エコツーリズムを中心としたカリキュラム展開で、環境への基礎知識の九州を目的とした研修を行う。
- 4) 高校生/中学生・・・・・・・・きちんとした知識/ノウハウに裏づけられた野外活動スキルを身につけるとともに、生物、科学といった環境学知識も吸収する。
- 5) 小学生・・・・・・・・あえて難しい研修を行う必要はない。キャンプなどのアウトドアアクティビティを通して、生活ベースでの自然環境との接し方を身につける。

< ツーリズムセンターからどこへ出かけていくか? >

先に述べたように、産業機能の中心が存在する都市から郊外のフィールドへの移動（ランドスケープの変化による視覚の刺激を促す）も教育のファクターと考える。（センター：福岡市中央区天神が理想的）

実践フィールド

施設

- ・ ツーリズムセンター内パーマカルチャーガーデン
- ・ 今宿野外活動センター（キャンプ・グラウンド）
- ・ 海の中道教育キャンプ場（キャンプ・グラウンド）
- ・ 脊振青少年自然の家（キャンプ・グラウンド）
- ・ 油山ネイチャーセンター
- ・ 九州大学演習林

他

ネイチャーフィールド

- ・ 背振山系
- ・ 宝満山系
- ・ 玄界島
- ・ 相ノ島
- ・ 小呂ノ島
- ・ 能古島
- ・ 今津干潟
- ・ 和白干潟

他

< 今後の人材育成 >

まず、ツーリズムセンターを支える常駐スタッフのエキスパート育成・

そして、教育現場の教師：春休み、夏休み、冬休みにツーリズムを体験。

ビジネスマン：企業研修、自己啓発等。

生徒（幼稚園、小学校、中学校、高校とそれぞれの理解できるレベルに応じて）は、通常の学校の授業として組み込み、夏休みに1、2泊から一週間程度のキャンプ実習などを適宜取り入れる。

<あとがき>

ここまで読んでいただいてありがとうございました。

本資料では、“環境教育”を実践するための施設について話を少し展開してきました。この考察は、今回限りで終わるのではなく、今後は「九州アウトドアネットワーク」というホームページの中で、実際に研修室やフィールドで実践できるレベルの“環境教育プログラム”を考察し、カリキュラム化することで、本物の“環境教育”の実践の場として中身のなるものへのと育てていきたいと思っています。

これを読んでいただいた皆様からも、是非ご意見を伺いたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

「九州アウトドアネットワーク」

<http://www3.justnet.ne.jp/~takibi/>

E-Mail : takibi@ma3.justnet.ne.jp